

しかおい

議会だより

第117号



まちなか会議総括
「対話する議会を目指して」

2

12月定例会開催

4

一般質問 2人の議員が問う

6

地域おこし協力隊の2人が活動

8

■ 2013年1月25日発行

■ 発行者 北海道鹿追町議会

【E-mail】 gikai@town.shikaoi.lg.jp

【URL】 <http://www.town.shikaoi.lg.jp/>

鹿追町の魅力発見！フォトコンテスト 2011
「氷の中のオレンジ」 撮影者：島塚清隆さん（札幌市）

平成24年 まちなか会議の実施状況

平成24年中のまちなか会議は計9回、101人の町民に参加いただきました。

1		平成24年1月20日 議会報告会 12月定例会	主な内容 ・十勝の消防広域化に向けての鹿追町の対応 ・小中高一貫教育、研究指定校の継続、カナダ・地球学 ・ごみ最終処分場の状況 その他 (参加者10人)
2		平成24年4月5日 議会報告会 3月定例会	主な内容 ・民間賃貸住宅家賃補助について ・バイオガスプラント、しゃくなげ荘の収支状況 ・増築したワーキングセンターの利用について その他 (参加者23人)
3		平成24年6月30日 懇談会 JAしかおい常勤役員との懇談会	主な内容 ・農協の第9次農業振興計画について ・バイオガス消化液の活用 ・雇用者住宅の確保 その他 (参加者7人)
4		平成24年7月11日 議会報告会 6月定例会	主な内容 ・廃屋処理助成について ・有害鳥獣問題、鹿の被害対策について ・旧西原環境研修棟、こども宿泊体験 その他 (参加者11人)
5		平成24年8月21日 懇談会 教育委員との懇談会	主な内容 ・小中高一貫教育における高校のあり方について ・生涯学習における今後のあり方 ・いじめ、自殺予防の本町のあり方 その他 (参加者8人)
6		平成24年8月24日 お呼ばれ懇談会 鹿追町商工会との懇談会	主な内容 ・活き生き商品券の発行について ・年末謝恩大売り出し「生活応援セール」事業支援 ・水鉄砲選手権大会への助成 その他 (参加者16人)
7		平成24年10月5日 議会報告会 9月定例会	主な内容 ・花火大会の継続について ・職員の仕事意欲、町づくりへの提言について ・そばまつりの今後について その他 (参加者9人)
8		平成24年11月7日 お呼ばれ懇談会 十字街商店会との懇談会	主な内容 ・そばまつりに関して ・その他のイベントについて (参加者10人)
9		平成24年11月29日 お呼ばれ懇談会 道の駅しかおい直売所との懇談会	主な内容 ・将来的な道の駅の体制づくりについて ・直売所の組織のあり方について ・その他 本文に掲載 (参加者7人)

「対話する議会」を目指して

まちなか会議での意見・要望を議会内で協議し、町へ予算化などの働きかけを行いました。

鹿追町議会は「対話する議会」を目的に、住民の皆さんと懇談を重ね、多くの意見をいただき、それぞれを政策に反映させるよう広聴活動に力を注いでいます。

まちなか会議で出された意見・要望を内部で検討し、それぞれの所管委員会で精査し、要望、対策を町側に提示しています。

- ・活き生き商品券の発行
- ・年末大売り出し
- ◎新年度に向けての事業要請
- ・花火大会の継続

- ◎各委員会で調査し、報告書として提言した要望、意見
- ・ごみ最終処分場
- ・TMR（土別市、名寄市）
- ・有害鳥獣問題（土別市）
- ◎継続的に調査、検討する事項
- ・消防の広域化
- ・道の駅しかおいの将来的な体制づくり



道の駅しかおい関係者とのお呼ばれ懇談会

まちなか会議



十字街商店会関係者とのお呼ばれ懇談会

十字街商店会

11月7日、ほほえみプラザにて谷保男会長ら10人と議会から5人（産業厚生常任委員会）の出席でおよばれ懇談会が行われました。テーマは「鹿追町のイベントの活性化並びに今後のあり方について」でした。

主に「そば祭り」について意見が集中しました。いまや1万食を売り上げるイベントとなった中、今年出店数が4から3に減り、今後いかに出店数を増やし発展させるかについて意見が出ました。この内容は行政を通じて、そば祭り実行委員会にも伝えてあります。

道の駅しかおい

11月29日、「道の駅しかおいの今後について」のテーマで窪田会長はじめ直売会役員7名と議会から6名の出席でお呼ばれ懇談会が開催されました。冬場（1月～4月）の販売物が少なく品揃えが課題との説明でした。

今後の経営方法も直営部門の強化、指定管理の導入等が出されさらに検討したいとの意見が出されました。レストラン部門の予定は無く軽食のみを提供し、観光情報を充実してイベント的な部門の強化を図りたいとの意向でした。



道の駅しかおい関係者とのお呼ばれ懇談会



平成24年12月定例議会は、12月5日に開会して一般会計補正予算、特別会計補正予算などの議案を審査し、全議案原案通り可決し（反対者なし）17日に閉会しました。



補正予算

2億2483万円を追加して、一般会計の予算総額を65億3784万円としました。

主な補正予算は、

○防災ラジオ購入費 462万円

防災行政無線の戸別受信機として使用できる防災ラジオを500台購入し、町民の皆様へ安価（1台9240円のもの）を5000円負担）で提供します。



○財政調整基金積立金

1億6000万円

平成23年度決算剰余の2分の1の額を基金（預金）として積み立てるものです。

病院会計では、

○低周波治療器購入費

210万円

町立病院リハビリ部門における治療能力向上のため、治療機器を更新するものです。防衛省の交付金を活用して整備します。



○ひまわりセンター縦型圧縮機購入 273万円

現在同センターで使用しているプラの圧縮機が老朽化したため更新するものです。防衛省の交付金を活用して整備します。

○鹿追保育園遊具購入費 161万円

○幼稚園遊具購入費 235万円

それぞれ不足している遊具の充実を図るとともに、将来の幼保一体化に備えるものです。防衛省の交付金を活用して整備するものです。

条例

新規条例2件は総務文教常任委員会（安藤幹夫委員長）に付託され審査されました。

審議の結果原案のとおり可決しました。

新規条例

1、長期継続契約をするこ
とができる条例

地方自治法の規定にもとづき、長期に継続して契約することができるものとするもので、その契約の性質上翌年度以降にわたり契約をしなければ事務の支障がある業務が対象。事務用機器や通信機の借入れ、医療機器、庁舎の管理業務に関するものが対象になります。

2、鹿追町暴力団排除条例

平成23年4月1日に施行された「北海道暴力団排除条例」を受け、条例を制定して道条例を補完し、町の事務事業から暴力団を排除するものです。

瓜幕バイオ中間報告

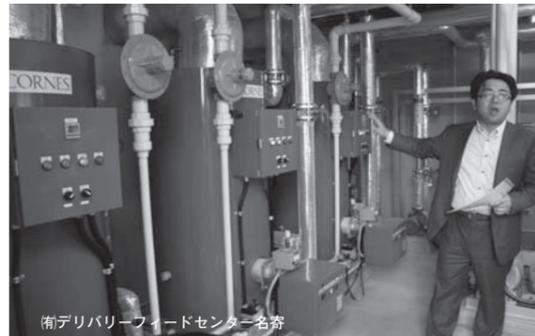
瓜幕バイオガス調査等特別委員会（上嶋和志委員長）は、7月4日～5日、先進地である（有）デリバリーフィードセンター名寄及び稚内市バイオエネルギーセンターを視察し次の通り12月定例議会で中間の委員会視察報告をしました。

【調査目的】

鹿追町では、平成19年度に環境保全センターを整備し、バイオガスに係る家畜糞尿の処理を行い、エネルギー生成消化液（有機質肥料）製造を実施しています。現在、瓜幕地区からの要望を受けて、瓜幕バイオガスプラントの建設検討を進めていることから、他町村の先駆的な取り組みを学び、知識の習得と実践に向けた事例を研修しました。

【考察】

1、名寄では、消化液の散布にトラクター牽引のタンカーによりスプラッシュプレート



有（有）デリバリーフィードセンター名寄

式散布（消化液を圧力によりノズルから射出し、反射板に当てて分散させる）が行われていました。臭いと施肥量の正確さに課題はありますが散布時間は、格段に短いものです。鹿追町での検討が必要と考えます。

2、稚内でのコ・ジェネ発電機は、国産が使われています。現在国内メーカーでは大

容量の発電機は開発途上ですが維持費やメンテナンスについては海外製より優位になると思われるので将来については国産も視野に入れることが必要と考えます。

以上のことから我町ではバイオガスプラントの余剰熱エネルギーを活用した作物栽培など、雇用が創出される環境作りが重要と考えます。

3、稚内市バイオエネルギーセンターでのPFI方式は、建設や維持管理、運営等を民間の資金、経営能力、技術力などを活用して行うものであり可能であれば鹿追町でも検討することが重要と考えま



稚内市バイオエネルギーセンター



町政を問う。

2人の議員が一般質問

Q 停電・災害対策は

A 防災対策強化を計画



狩野正雄議員

て、地域として、町としてどのように備える事が
必要か。

自助として普段から準備しておく事は。

(答弁) 吉田町長

11月27日から28日の暴風雪により、室蘭市・登別市において大規模な停電が発生した。
暖房器具や生活の全てが電気により制御されている現在、事態は深刻である。冬期間における災害時の対応を住民とし

自分の身を守ること。災害に備え3日分の食料。特に冬の災害・停電対策として電気なしで使える灯油ストーブ。ラジオ付き防災無線。基幹産業である酪農において、不測事態に備え非常用発電装置が必要。

【質問】 公助として災害装備品の備蓄、防災協定の状況

【答弁】 吉田町長 防災備品の備蓄目標を680人として設定している。来年度以降の事業として災害時の

(質問)

共助としての地域や防災組織のあり方

(答弁) 吉田町長

25年4月1日から「地域防災委員制度」をスタートさせ、日頃から高齢の方や要援護者の「安否確認」「声掛け」を行い、地域が地域を守る防災意識の高揚を図る。

拠点施設となる役場庁舎の耐震改修、自家発電装置、防災備蓄庫の設置など防災対策強化を計画している。
防災協定では「北海道及び市町村相互協定」など32の協定を締結し災害時の支援を可能にしている。
また都市との協定もあり、「防災協定を含めた友好姉妹都市締結」の検討も進めたい。

狩野 正雄議員

冬期災害時の対応について



飯沼 新吾議員

史跡、名所の保存活用に対する検討の経過は・・・



歴史 史跡、名所の活用

A 必要な対応を考える



飯沼新吾議員

【質問】 現在、町の文化財は①白蛇姫舞い②拓殖鉄道蒸気機関車③拓殖、河西鉄道の交差橋跡で、未だ掘り起こされいないものもたくさんあると考える。また、町ではジオパークの認定も目指しているところであり今後の史跡名所への考え方についてお尋ねする。

を開催し、掘り起こし調査を実施。情報収集の結果、戦時中に使用された「実弾射撃場跡」を確認。今後の取り扱いを検討、協議中。史跡等の写真、概要解説等の資料集の作成が必要と考える。ジオパークも多くの人に知ってもらいたいと考えている。

(質問)

31カ所の史跡・名所の看板の立て替えは。

(質問)

掘り起こしを進める中で、どういった形で公募や応募を行ったのか。

(答弁) 大前社会教育課長

全町的な掘り起こしは行っていない。実弾射撃場以外に見つけたものは、できるだけ、写真や貴重な資料を整理し保存を行う。保存方法も教育委員会とも十分に相談しながら検討していく。

全員協議会

12月定例議会の開催を控えた11月26日に、町より防災に関する次の制度の説明を受けました。

鹿追町地域防災委員制度

災害が発生したとき「自らの命は自らが守る」という自助と、「自分たちの地域は自分たちで守る」という共助の考え方が重要になります。
3・11の大震災を教訓に、防災意識が高まる中平成25年4月より鹿追町地域防災委員制度が創設されます。
設置の目的は、
1、防災意識の高揚を図る。
2、防災訓練や研修会への参加、習得した知識の啓発。
3、地域自主防災組織の育成。
4、要援護者の把握と近況の確認。



災害時要援護者支援制度

突然の災害に見舞われたとき、大きな被害を受けやすい高齢者、子ども、障がい者、傷病者、外国人など手助けが必要な人に地域と関係機関が情報を共有して連携し、支援する制度です。
1、災害時、要援護者の身になって防災環境の点検を実施。
2、隣近所で助け合い避難誘導。
3、不安な状況に置かれている人の立場になり支援する心構えを。困った時にこそ温かい気持ちが大切。
4、日頃から積極的なコミュニケーションで支援活動を円滑に。防災委員の役割が重要になります。

【答弁】 吉田町長 町内には時間の経過とともに風化する有形物があるが、後世にどのような形で伝えるか判断が必要。町文化財保護審議会



追跡

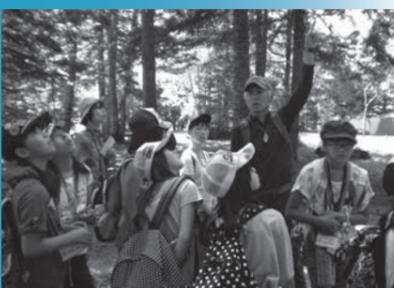
地域おこし協力隊の若者が町で活動しているんです。

一般質問で導入を提案された「地域おこし協力隊」。現在、2名の隊員が鹿追町で活躍しています。大西さんは「ジオパーク」、唐原さんは「子ども宿泊体験交流」とそれぞれの分野で活動をはじめました。

町企画財政課
唐原 香奈さん
(年齢)
25歳
(出身地)
千歳市、育ったのは恵庭市
(家族構成)
両親と妹の4人家族
(前職)
恵庭市学童クラブ指導員
(趣味)
料理



台東区を訪れた鹿追の子ども達



鹿追を訪れた福島県飯館村の子ども達 自然観察



鹿追を訪れた福島県飯館村の子ども達 農業体験

町教委社会教育課
大西 潤さん
(年齢)
35歳
(出身地)
上土幌町
(家族構成)
妻と生後4ヶ月の女の子
(前職)
ディサービス所長、ケアマネジャー
(趣味)
夏は登山と温泉めぐり、冬はスノーボード。一人で雪洞に泊まることも。



ジオパーク講演会



地球学の体験授業 火山の実験



ジオツアー 地質調査

大西潤さんに聞きました。

「ジオパークで繋ぐ」

協力隊に応募したきっかけは？
自然環境の豊かな所でのサービス起業を考え、起業地での人間関係の構築という課題について思案していました。そんな折、鹿追町で地域おこし協力隊の募集をしてい

「地域おこし協力隊」に就いて、「地域協力活動」に従事してもらい、あわせてその定住・期間を最長で3年、道内では今年7月現在で35市町村、74人が協力隊員として活動中です。特別交付税による財源措置を受けています。

地域おこし協力隊

唐原香奈さんに聞きました。

「子どもの交流の一助になりたい」

協力隊に応募したきっかけは？
偶然見た転職のサイトで協力隊を知りました。今まで実家から離れて生活をしたことがなかったため、別の地域に住んでその地域のために働くという、協力隊員の仕事に興

ることを知り応募しました。なぜ鹿追町を選びましたか？

隣の音更町に親が住んでおり、何かあっても駆けつけられることができる距離であること。素晴らしい自然環境があること。サービス起業の余地を含んでいること。以上の3点を考慮し、鹿追町を選びました。

どんな仕事をしていますか？

町教育委員会社会教育課社会教育係で、ジオパークの担当として働いています。具体的には、しかおいジオパーク推進協議会事務局として計画の立案と実行、各関係機関との連携、広報誌の作成などの実務一般を行っています。今後は、福祉や環境アセス

味を持ち応募しました。なぜ鹿追町を選びましたか？

募集している協力隊員の業務が「子どもたちとかわる」という、学童クラブで勤務していた経験を活かせるものだったからです。どんな仕事をしていますか？

「鹿追町子ども宿泊体験交流協議会」に関する仕事です。最近では、11月に東京都台東区に鹿追町の児童を2泊3日で派遣した事業の児童引率や、それに関する事務をしました。小学6年生を10人、もう1人の職員の方と引率しました。ケガなく研修を終えられて本当に良かったです。

「鹿追町子ども宿泊体験交流協議会」とは、都市などから農村地域での子ども宿泊体験

メント調査の経験と、大学で学んだ考古学と学芸員の資格を生かしながら、「あなたが協力隊として来てくれて良かった」と思っていたらいいなと思うような活動をしたいと思っています。

鹿追町に住んだ感想はいかがですか？

移住してからまだ4ヶ月ですが、実際に住んでみての第一印象は、「お金のある町だなあ！」でした。町営の乗馬場や年中使用可能な温水プール、大きな美術館など、町の規模から考えると公共施設が非常に充実しています。また、車があれば音更や帯広まで近く、買い物等で不自由することはありません。鹿追町は、私の好きな野山

8月に福島県飯館村の14名の児童を受け入れた東北被災地子ども受け入れ事業や、子ども農山漁村交流プロジェクトとして、都市部の児童の宿泊体験を鹿追町で受け入れることを計画しています。

また、役場の企画開発係に所属しているので、係の仕事もしています。鹿追町に来て担当した係の仕事としては「我が町の姿」という町の統計資料の編集です。私が打ち込んだデータやグラフなどがホームページに載った時は、嬉し

遊びも沢山できる環境があるので、今後も大きな楽しみがあります。自分自身の想いは？

ディサービス起業への足がかりとして「地域おこし協力隊」に応募し、鹿追町にやってきました。そして、現在ジオパーク担当として業務に当たっています。まったく畑違いの仕事ではありますが、「何かを繋ぐ」という意味では共通の仕事で周りの方に助けられながら、楽しく責任感を持って働いています。そして鹿追町の皆様、これからもよろしくお願ひします。

いのと同時に、間違いは許されないと同時に、緊張もありません。鹿追町に住んだ感想はいかがですか？

「美味しいものが多いなあ」ということです。農産物はもちろんですが、おしゃれで美味しい飲食店が多いので、お店巡りを楽しんでいます。自分自身の今後への想いは？

協力隊終了後も、このまま鹿追町に残って働いていきたいと思っています。子どもとかわるのが好きなので、そのような職に就ければいいなと考えています。まだ時間は残されているので、地域おこし協力隊員として携わった仕事の中から、自分の適性を見つけていこうと思っています。



名湯かんの温泉が 今春再開します。



2008年から休業中の然別峡かんの温泉が、大樹町の勝海電気の関連会社「鹿追ホットスプリングス」の手により再開されることになりました。道内でもトップクラスの秘湯として知られ、また多くのの人からも「かんの湯で治らぬ病は、無い」とまで言われていたほど親しまれていた名湯。
一日も早い再開が望まれます。



鹿追ホットスプリングス
勝海敏正社長

昨年11月に、環境省などの許可があり、施設の解体を行っています。5月下旬より、日帰り入浴、翌年にひなびた雰囲気な大事にした長期滞在ができる宿泊施設として開業するつもり。電気は小水力発電などで自給自足したい。全国の温泉ファンや鹿追町民の熱い期待にこたえられるように頑張ります。

(取材・インタビュー) 上嶋 和志

鹿追高校カナダ研修報告会



平成24年度の鹿追高校生カナダ短期留学派遣事業報告会が12月13日に町民ホールで行われました。保護者や町内の中学2年生、来賓など約180人の参加がありました。
今回で17回を数える派遣事業は、10月5日～18日にわたる町の姉妹都市ストニーブレイン町を訪問しホームステイしながら地元の高校への体験入学や交流事業を行いました。報告会ではスライドやビデオを使いカナダでの生活を紹介し、また日本との食の違いについての研究発表が行われました。



鹿追高校1年A組
大野 日向君

ストニーブレインの人たちは、皆さん私たちにとてもフレンドリーに接してくれました。これからは英語をもっと勉強しカナダや他の国の人たちと、充分なコミュニケーションがとれるようにしたい。

(取材・インタビュー) 上嶋 和志

編集後記

2012年は5月の大雨、夏の猛暑、雨続きの11月と農業にとっては過酷な気象状況でした。それでも鹿追町農業の粗生産高は史上最高を更新しました。底力を感じますがT P Pが結ばれるとそんな鹿追町農業も立ち行かなくなります。議会では2度にわたり政府へのT P P反対の意見書送付を行うなど、鹿追町農業のためT P Pには反対の立場を明確にしています。今後も全会一致で例外なき関税撤廃を前提とするT P P交渉の参加には、反対していきます。

議会広報部会員 上嶋 和志

議会広報広聴常任委員会 広報部会

- 部会長 狩野 正雄
- 副部長 武藤 敦則
- 部会員 台蔵 征一
- 上嶋 和志
- 山岸 宏